

募集班長の模型部屋（第18回）

皆さん、こんにちは。皆さんは好きな言葉はありますか？私は「一矢報いる」が好きです。敵の攻撃に対して大勢は変えられなくとも、わずかでも相手に仕返しを食らわすことを意味します。男ならば某ドラマのように「倍返しだ！」と形勢逆転と行きたいところですが、そんなに世の中うまくいきません。私はかつて第7偵察隊に勤務していたとき、戦車部隊との対抗方式訓練に参加しました。圧倒的な戦車戦力を持つ対抗部隊に対してベニヤ板で作ったハリボテ戦車を設置し、敵の攻撃を遅らせて戦闘地域から離脱したり、夜間の敵陣地に防犯ブザーを投げ込んで攪乱してみたりと「一矢報いる」より「握りっ屁」みたいなことをやっていました（笑）。今でもこの言葉は私のモットーとなっています。

さて、日本軍の戦車にも米国の戦車に一矢報いたものがありました。それが・・・

1式砲戦車です。



1945年1月8日、フィリピンのルソン島に上陸してきた米軍に対し、たった4両しかない（その他の戦車は配備する前に輸送船ごと撃沈された。）この1式砲戦車がこれを迎え撃ち、大損害を与えました。詳しくはその手の文献を見ていただければと思いますが、それまでM4中戦車に歯が立たなかった日本の戦車がこれを撃破する戦果を収めたのです。これを「一矢報いる」と単に一言で片付けてはいけないのでしょうか、私の好きな戦史のひとつです。

キットはタミヤで、ストレート組みです。手を加えたのはカステンの連結式キャタピラぐらいですかね。（車体よりキャタピラが高価ですが・・・）



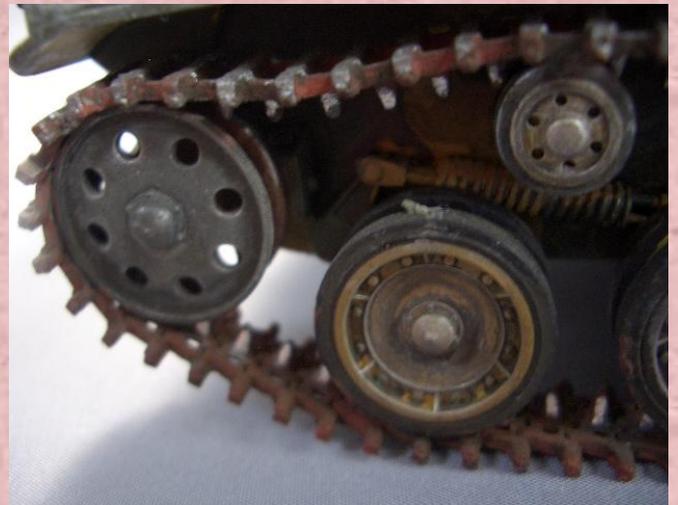
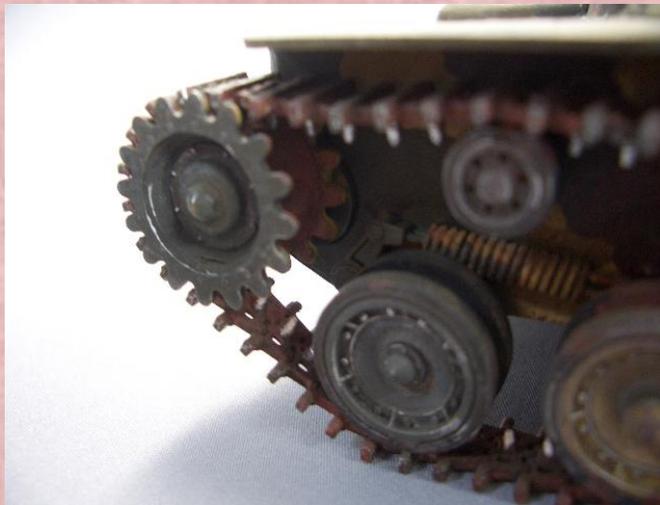
発売当初は750円だったんですよね。今では日本陸軍歩兵セットが同封されて2300円?だったかな。高くなりましたよね。発売から20年以上たっているのに高い評価を受けているキットで、旧軍ファンの方もストレート組で作っている方が多いようです。第7回で紹介した97式中戦車同様に、手を加えずに製作を楽しみました。とても作りやすく、ディテールも現在売られているキットに遜色ないものとなっています。



塗装はクレオスの土草色、草色、土地色（土地色の日本陸軍戦車色セットを使用）です。境界は筆塗りし、エアブラシで塗装しました。ぼやかさないことで旧軍らしさを出しました。流れる錆はパステルコンテです。少しオーバーだったかも・・



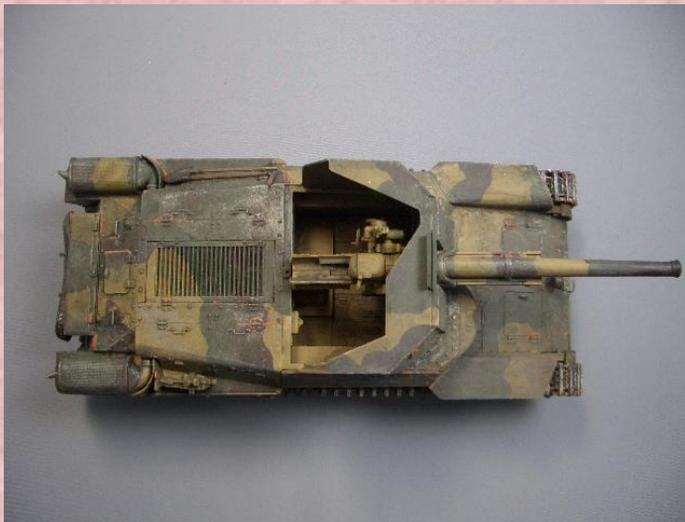
オープントップのため、車体内部も模型化されています。砲尾後座レール部は鉛筆で塗って金属感を表現してみました。



スプロケットホイール（起動輪）の内側は常に泥にこすられるため、錆と泥でこびりついています。アイドラーホイール（誘導輪）のキャタピラとの接触部分は、鉛筆を塗って金属の磨耗感を表現してみました。キャタピラのセンターガイドも同様です。



スミ入れ後にウエザリングスティック「ライトアース」によるドライブラシで埃を表現し、ハッチ類に老いる汚れやススを付着させました。



カステンのキャタピラは組み上げて接着した後、アクリルタミヤの「ハルレッド」を筆塗りし、「レッドブラウン」を薄めて更に塗り重ね、エナメルタミヤの「クロームシルバー」をドライブラシし、鉛筆の粉を諸所にこすり付けました。迷彩塗装が良く分かるように、過度に泥を付着させるのは止めました。

あまり強そうに見えないのですが、それに反して米軍を苦しめたこの戦車は私の中ではまさに「一矢報いる」戦車です。



たいして工夫して作ったわけでもないのに4ページも使ってしまいました。実は小学生の頃からこのキットが欲しかったのですが、小遣不足や店頭になかったりして、25歳の頃にやっとスポット生産されたのを購入する事が出来ました。そんな苦労もあって思い入れが深い戦車でもあります。

さて次回は、戦車モデラーなら定番のドイツ軍戦車です。

またお付き合いくださいな。それではまた。